



本校の授業改善に向けた視点と手だて

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域との連携の工夫	小中一貫教育の視点	特別支援教育の充実
<ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導・習熟度別指導を工夫し、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。 ・児童一人一人の興味・関心を大切に授業を工夫し、分かる、できる喜びを味わわせる指導を目指す。 ・タブレット PC の利用を工夫し、Figjam 等を活用した授業を展開することで児童相互の認め合い、高め合いを促進する。 ・ICT を活用して総合的な学習の時間や体験的な学習指導の充実を図る。 ・地域との関わりを大切に学習活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・算数では全学年において習熟度別指導を実施する。 ・理科、生活科、総合的な学習の時間などで農園を活用する。 ・年2回、読書旬間を実施する。金曜の朝読書を実施する。「大南おすすめの本リスト」を基に読書指導を進める。 ・行事に関わる適正な授業時数の確保に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究の主題「あたたかな心と豊かな人間関係をはぐくむ道徳・特別活動」に向けて、道徳・特別活動(学級会)の充実を図った授業研究や、指導の工夫をする。 ・全教員の指導力向上を目指し、校内 OJT・模範授業や研究授業を実施する。 ・学校訪問・研究授業など、中学校との連携を図った取組を進める。 ・ALTとの共通理解の下、連携を図った外国語(活動)を推進する。 	<p>児童</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学年の児童対象に意識調査を行い、授業改善に活用する。 <p>教師</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価を行い、成果と課題を振り返り、授業改善、教育課程編成に活用する。 <p>外部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年1回保護者・児童・教職員アンケート等による学校評価を行い、それを基に学校関係者評価会を実施し、学校改善に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・土曜授業を公開の場とし、定期的に学校・児童の様子を見てもらい、適切に学校評価を行うことで学校の信頼度を高めていく。 ・道徳授業地区公開講座を実施し、講演会では、保護者・地域の方と意見交換を行う。 ・総合的な学習の時間、生活科などにおいてゲストティーチャーを招き、連携を図る。 ・朝の時間を活用し、地域の方の読み聞かせの会を開き、読書活動の充実を図る。 ・地域人材や自然環境を活用した学習活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校区別協議会で、大泉第二中・大泉第二小との小中一貫グループ研究において教科等の10分科会に分かれて小中9年間を通した系統的指導法の研究を進める。 ・三校合同による、一斉あいさつ運動を実施し、地域力の向上を目指す。 ・小中一貫教育実践校の実践例を活用する。 ・部活動の見学、交流、生徒会活動の説明会、教科の乗り入れ授業等の工夫を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通常学級における発達に課題のある児童に対しての理解を深め、適切な指導の工夫を学ぶとともに、ICT 機器を活用することにより視覚支援の充実等、環境を整える。 ・地域の特別支援学校と交流し、特別支援教育への理解と充実を図る。

授業改善策の検証方法

学校評価(地域、保護者、児童)、自己評価(教員)による検証を行う。東京ベーシックドリル等を活用した学力調査を行う。(算数等)
児童の授業中の発言、行動の観察、ノート、プリント、学習カード類の記述、作品や実技の様子、ワークテストの結果等による検証を行う。